

令和6年度 有機栽培実証ほ場 茶

(協力:株式会社新井園本店)



実証開始前の現地確認時点



R6.7.31 (水) 事前作業



夏～秋にかけて行う施肥や菌散布の効果を引き出すために茶樹の間にある刈り落とした枝の残渣を取り除きました。

R6.8.6 (火) 培養菌散布



培養菌散布での
病害虫の防除に
挑戦します。



R6.8.19(月)生育状況



R6.9月～10月 施肥・菌散布



POINT

【秋施肥】

茶の栽培で、効果的な施肥の時期として秋施肥が挙げられます。地中の栄養分を根が吸収しやすい秋に施肥をおこなうことで、春の摘み取り時に茶葉の収量増が期待できます。



肥料を土に浸透させるため、9月～10月にかけて、3回に分けて施肥（うち1回は菌散布）を実施しました。

R6.11.18(月)生育状況



少し芽が伸びてきました🍵
春先に再度の施肥を予定しています。

R7.2.20(木)春肥



お茶の品質向上のための
追肥を行いました。
アミノ酸肥料の施肥後、
菌培養液を散布します。

芽の生育状況 (R7.2月)



茶樹の上位部

秋施肥の効果として
芽の伸びが確認できました！

伸びた弱い芽は、やや害虫の被害が見られました☹
茶樹そのものが強くなるには年数が必要なようで
今後の成長に期待です！



茶樹の下位部

上位部と同様に芽が伸びていました。
樹全体に養分が届いているようです！

根に十分な栄養が行きわたるかどうか
摘み取り時の収量に大きく影響します。